

／ 最新の研究成果を、分かりやすく解説 ／

第7回

PIAS セミナー

モンゴル古代遊牧民と鉄生産 —2025年夏・アルタイにおける発掘調査速報—

現在のモンゴルには伝統的な製鉄はなく、歴史的にみても製鉄があったという記録はありません。モンゴルを中心に勢力を誇った騎馬民族、匈奴(きょう)奴(ど)(紀元前3世紀～紀元1世紀後半)も鉄を交易あるいは略奪で得たという考え方が1950年代以降支配的でした。しかし2010年、モンゴル科学アカデミー考古学研究所・愛媛大学の共同チームが匈奴の製鉄炉を発見・発掘してその定説を覆し、古代遊牧民族による製鉄を世に示しました。

そして今、匈奴以後の製鉄がどう変化、あるいは発展したのかを解明すべく毎年発掘調査を続けています。その舞台がモンゴル西端、通称アルタイにあるバヤン・ウルギー県。発掘調査したイヒ・トゥムルティ(大きな鉄、大きな鉄山の意味)遺跡は中国(新疆ウイグル自治区)との国境から約10km東に位置し、日本の奈良時代に相当するウイグル時代に属します。この時代の製鉄遺跡の発掘調査はモンゴルで初めてとなります。このセミナーでは調査風景、生活風景を交えながらイヒ・トゥムルティ遺跡の調査成果について報告します。



村上 恭通 教授
愛媛大学先端研究院
東アジア古代鉄文化
研究センター (AIC)



イヒ・トゥムルティ遺跡の発掘風景。石を多用する製鉄炉はモンゴルでも珍しく、しかも破壊されており、発掘調査は難航した。



遺跡から車で約1時間のところにあるドゥンドゥ・トゥムルティ・ゲルキャンプの夜空。

2025 **11/6** 木
16:00~16:30

eu-PIAS

どなたでもご参加いただけます

オンライン開催

セミナーのログイン情報は、EU_BBSをご覧ください。
学外の方は事前に参加登録をお願いいたします。

〈お問い合わせ〉

愛媛大学 先端研究院 先端研究高度支援室

E-mail: pias_adm@stu.ehime-u.ac.jp

参加登録フォーム

